

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

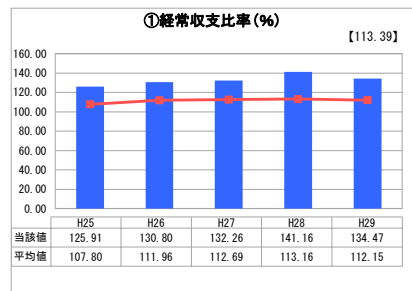
宮城県 名取市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A4	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)	
-	94.63	99.66	3,272	

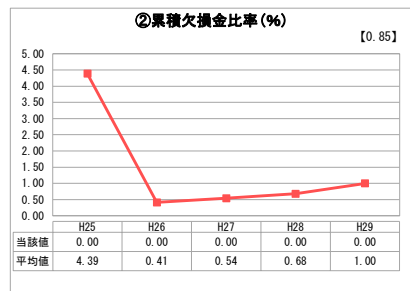
人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
78,460	98.17	799.23
現在給水人口(人)	給水区域面積(km <sup>2</sup> )	給水人口密度(人/km <sup>2</sup> )
78,036	98.17	794.91

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
【】 平成29年度全国平均

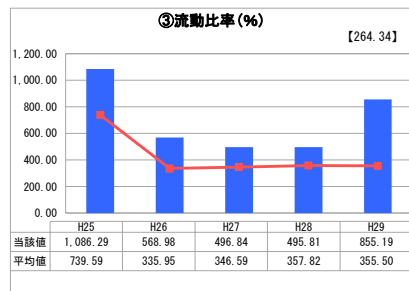
## 1. 経営の健全性・効率性



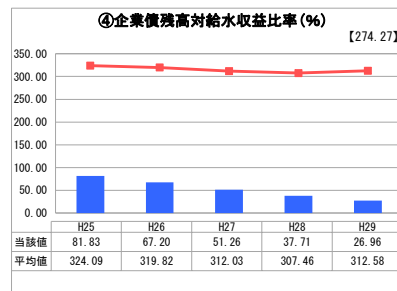
「経常損益」



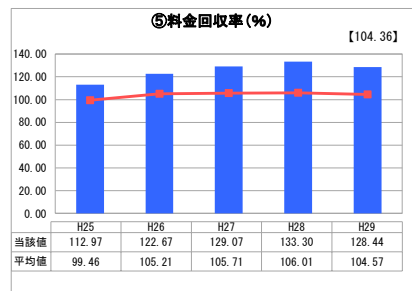
「累積欠損」



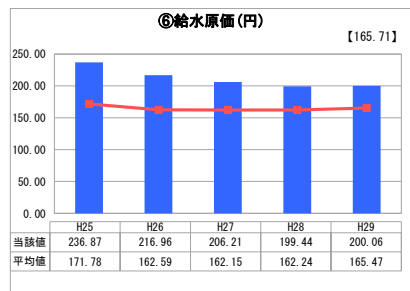
「支払能力」



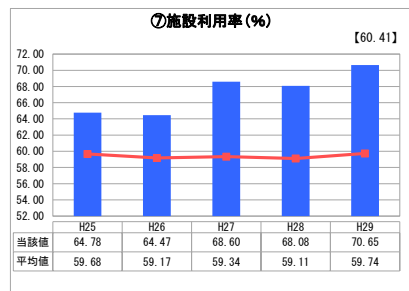
「債務残高」



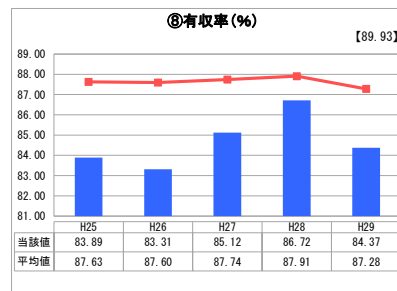
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」

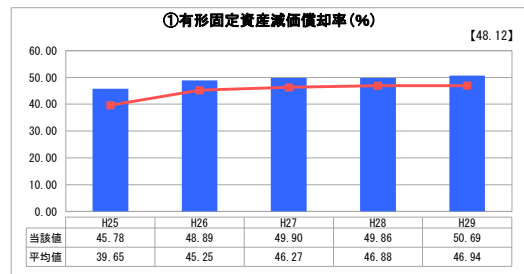


「施設の効率性」

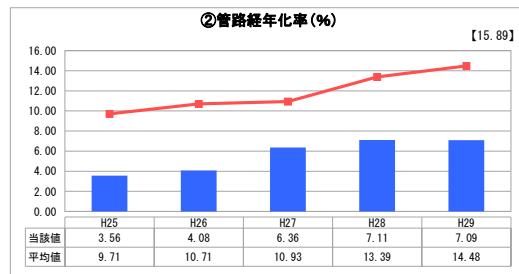


「供給した配水量の効率性」

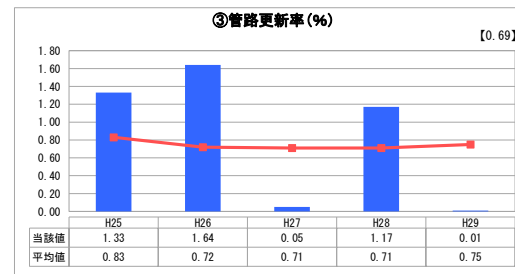
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管路の経年化の状況」



「管路の更新投資の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①経常収支比率については、水道料金改定などに伴い減少したものの、類似団体よりも数値が上回っており健全な経営状況にあると言える。  
 ②累積欠損金比率については、本市においては欠損金残高が無いため発生していない。  
 ③流動比率は、流動負債（工事未払金）の減少により上昇し、類似団体と比しても良好な数値である。  
 ④企業債残高対給水収益比率は、類似団体と比して低い。新規の債務は発生しておらず、今後も減少が見込まれる。  
 ⑤料金回収率については、水道料金改定などに伴い減少したものの、類似団体平均及び100%を上回り、適切であると言える。  
 ⑥給水原価は、配水量の多くを受水で賄っていることから類似団体の平均より高くなっている。  
 ⑦施設利用率については、類似団体や全国の平均を大きく上回っており、稼働施設の規模や利用状況については適正であるとしている。  
 ⑧有収率については、類似団体より低い割合にある。平成29年度は、年間有収水量が増加したものの、総配水量の内無効水量がそれにも増して大幅に増加した結果有収率が下がった。無効水量の増加は、被災地域の既存管を介して部分通水の切替（現在は新設管への切替済み）などによる漏水が増加したものと見ており、今後も漏水防止対策に継続的に取り組み、有収率向上の対策を講じる必要がある。

### 2. 老朽化の状況について

①有形固定資産減価償却率については、おおむね類似団体平均と同程度である。施設の老朽化が進んでいる状況であり、引き続き計画的な修繕、更新が必要である。  
 ②管路経年化率については、類似団体平均よりも下回っており、毎年継続した配水管更新事業を市内全域において計画的に行っている。ここ数年で上昇が見られるのは、昭和50年前後に布設された管路が耐用年数を迎えること、それに対する更新が必要であることを示している。  
 ③管路更新については、復興事業を進めつつ「アセットマネジメント」における更新需要に基づき、管路における重要度及び管路劣化調査結果等から更新の優先順位を設定し、これに基づいた計画的な更新を行っている。

### 全体総括

国平均値、類似団体平均値と比しても、全体的に各種指標を通じて健全な経営状況にあると言える。分析の数値的に見て、当市独自の状況として震災の復興工事関連の影響が一部あり、工事完了まで続くことが予測される。  
 安定した経営のために、復興を進めつつ今後更に老朽化が進む施設更新の財源確保のため、経営の効率性向上を目指すと共に、限られた財源の中で計画的な更新を行うことが必要である。策定済の「アセットマネジメント」「新水道ビジョン」に基づき、計画的な経営と施設更新を進めているところである。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、管路経年化率及び管路更新率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。